

防 災 計 画 説 明 書

1. 工事中の防災

項 目	計 画 内 容 （ 記 入 例 ）
仮 設 沈 砂 池	<p>（例1） 構造：掘込式 仮沈砂池容量：〇〇m³</p> <p>（例2） 工事着手にあたっては、調整池の先行築造し、行為区域内の流水については全て調整池に導き、当該調整池を仮沈砂池として利用し随時浚渫維持管理を行います。</p>
工 事 の 順 序 等	<p>防災工事を先行します。（別添工事工程表参照）</p> <ul style="list-style-type: none"> └ 梅雨期及び台風襲来期は土工事は行いません。 └ 梅雨期の工事については安全対策として〇〇を行います。
安 全 対 策	<p>（例1：1カ年以上の工期の場合）</p> <p>万一の災害に備え、土のう等の防災資材を準備します。</p> <p>非常時の人員配備体制や連絡網などを整備します。</p> <p>（例2）</p> <p>万一災害が発生した場合は、第三者に対して被害を与えないよう当方が責任をもって対応します。</p>
環 境 の 保 全	<ul style="list-style-type: none"> └ ・〇〇のため、濁水流出による下流への影響はありません。 └ ・別添協議書のとおり、河川管理者と協議済みです。 └ 沈泥池（容量 ）を設けます。 └ 沈砂池に遊水部を設け、シルト等の微細粒子を排除します。

2. 土 工

項 目	計 画 内 容 （ 記 入 例 ）
盛 土 材 料	仮置き場所：〇〇（防災計画平面図参照） 盛土には△△を使用します。
盛 土 勾 配 及 び 小 段 な ど	盛土高： 〇〇〇〇 m 盛土面積： 〇〇〇 m ² 盛土量： 〇〇 m ³ 盛土勾配： 〇〇度 （最高盛土の箇所について記入） （例1） のり高〇m毎に幅〇mの小段を設けます。 小段は排水溝方向に、5%程度の下り勾配をつけて施工し、排水溝に水が流れるようにします。 （例2） 基準値の勾配を超えるため、検討書を別途添付します。
溪 流 に 対 す る 盛 土	地下水排水工の構造： （例1） 溪流には盛土はいたしません。
盛 土 と 地 山 の 接 続	（例1） 勾配が15度（約1：4.0）程度以上の傾斜地盤上に盛土を実施しないので、段切り施工は行いません。 （例2） 窪地は残しません。 （例3） 段切りの高さは〇〇m、幅〇〇mとし、〇%の勾配を設ける。

項 目	計 画 内 容 （ 記 入 例 ）
切 土	土質： 切土高： ○○○ m 切土面積 ○○○ m ² 切土量： ○○○ m ³ 切土勾配： ○○度 （最も高い箇所について記入） 「盛土勾配及び小段など」の記入例参照
法 面 処 理	（例1） 法面保護工として○○を行います。

3. 土 石 の 堆 積

項 目	計 画 内 容 （ 記 入 例 ）
基 本 的 事 項	（例1） 場内流用するため土石の堆積は発生しません。 （例2） ○ヶ月（年）を経過した後に除去します。 堆積箇所： 勾配： 空地の幅：○m（堆積する土石の高さ：○m） 立入り禁止を掲示のうえ、外周には柵を設けて、適切な排水措置を講じます。（柵、排水措置の仕様を具体的に記入）

4. 排水施設

項 目	計 画 内 容 （ 記 入 例 ）
計 画 流 量	別添水理計算書のとおり
造 成 地 内 の 路 排 水	<p>（例1） 表面水は開水路により処理します。（排水計画平面図参照） 構造：U300×〇〇m、U500×△△m</p> <p>（例2） 地下水排水工を行います。 構造：〇〇×△△m</p>
流 末 処 理	<p>（例1） 流末は国有水路に接続します。 流末処理については、別添のとおり許可済みです。</p> <p>（例2） 調整池の流末は国有水路に接続します。 調整池の管理については、〇〇市と協議済みです。 協議内容：別添協議書のとおり</p>

5. 沈 砂 池

項 目	計 画 内 容 （ 記 入 例 ）
容 量	<p>（例1） 調整池の泥溜部を沈砂池と兼用します。 容量については別添計算書のとおり</p> <p>（例2） 〇〇（詳細に記載すること）の理由により、沈砂池を省きます。</p>
構 造	構造：掘込式
維 持 管 理	沈砂池については、土砂流出による影響が認められなくなるまで存置し、管理者〇〇〇〇が維持管理を行います。

6. そ の 他

項 目	計 画 内 容 （ 記 入 例 ）
	<p>（例1） 造成区域の上流に残流域が存在しますが、〇〇の理由により土石流の発生の危険性はないと判断します。</p> <p>（例2） 造成区域の上流に残流域が存在し、土石流の発生が予想されますので、砂防指定地管理者と協議のうえ、防災計画書のとおり、防災に対する措置を講じます</p> <p>（例3） 造成区域の上流には残流域は存在しませんので、対策の必要はないと判断します。</p>